

“El Argentin Dji-jo”

PERIODICO SEMANAL EN JAPONES

DIRECCION, REDACCION Y ADMINISTRACION

USPALLATA 981

U. T. 7051 (BUEN ORDEN)

BUENOS AIRES

亞東季時報

創刊滿三周年紀念

Número Extraordinario

3^{er}. Aniversario de su fundación

1924 - 25 de Mayo - 1927

THE YOKOHAMA SPECIEBANK LTD.

BME MITRE 363 - BUENOS AIRES

Casa Matriz = YOKOHAMA

Capital suscripto & integralmente pagado

YEN 100,000,000

亞國

獨立榮

橫濱正金銀行

ブエヌアイレス支店

ハルトロードモートレ
街

三六三番

電話 (U.T.)

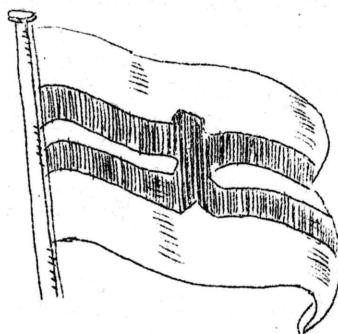
アヴェニーダ 〇四一六

全

二八八

亞爾及丁時報
創刊三周年

祝



國

獨立
祭

大阪商船株式会社

ブエノスアイレス支店

サシマルテン街418
電話二二五七一〇

世界時報
三周年記念

大阪商船會社南米就航船
ミラ丸(六〇〇〇噸) ラ・ラタ丸(一五〇〇〇噸)
ハワイ丸(八〇〇〇噸) センティビデオ丸(一五〇〇〇噸)
サントス丸(一五〇〇〇噸)

OSAKA SHOSEN KAISHA
San Martin 418 U.T. 2825 Retiro

時報

三周年



一九二七年

五月廿五日

横濱加賀聯合名會社代理店

原

本

吉

商店

店

輸入部 ベルグラノ街 一四七〇番

電話 マリヨ二四三八
火ダビア六六一四

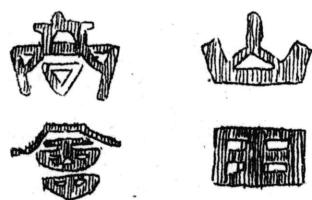
小賣部 カイヤオ街 八九二番

モ活 フンカル〇七八六

スイ・パチャヤ街 五二九番

モ活 マリヨ 七〇七二

金



VIVA LA ARGENTINA!
VIVA EL ARGENTINDUJO!

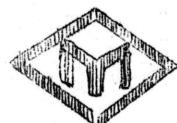
25 de MAYO - 1927

飯	橋	相	今
野	本	良	村
榮	仙	周	勝
作	次	吉	五
		祐	郎

S.YAMADA & CIA.

Importador
alsina 1838-1840 Buenos Aires
U.T. 37 Rivo. 0571

Homenaje a
"EL ARGENTINDUJO"



MATSUURA
TRADING Co., Ltd.

Importadores
Artículos Generales
del Japón

LAVALLE 341 B. As.
ESC. 107, U.T. 31(RITIRO) 0985

松浦貿易商會

TAIYO TRADING CO.

IMPORTADOR Y EXPORTADOR

Chacabuco 500 Bs. Aires



大洋貿易商會

時亞國
報三周年
獨立祭

辻才次郎

U.T. 5744 (AV.)
DIREC. TELEG. "TAIYO"

華國三報時祝

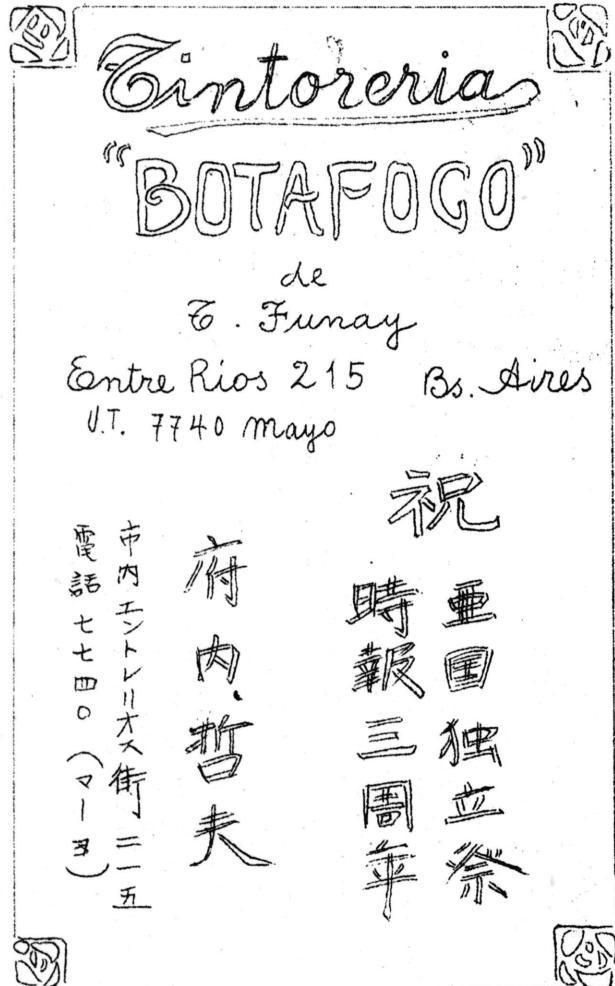
HORIKOSHI CO.

IMPORTACION
DE
SEDA EN GENERAL

San Martin 235 Bs. Aires.
Esc. 76 U.T. 3566 (AVENIDA)

Casa Matriz:

28 Yamashita-ct,
Yokohama
JAPON





Tintoreria
Japonesa
"EL TOKIO"
—C. Miyasaki—

Casa Central: Corrientes
U.T. 62 mitre 1077 2589

Suc.
Sta. Fé
2500
U.T. 44 Juncal
5609

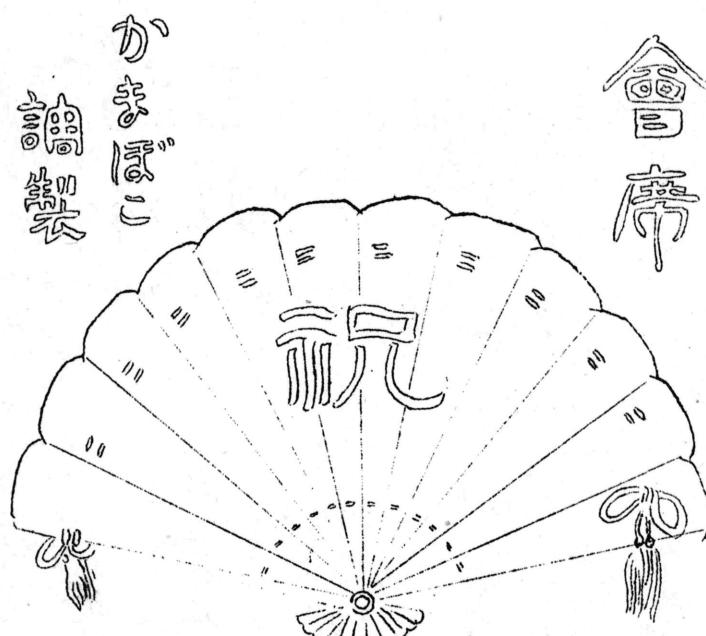
店主
宮崎惟光
東京
染物店

Suc.
Lavalle
567
U.T. 31 Retiro
3335

Ikuji Saki
FABRICACION
MUEBLES DE BAMBU
Cochabamba 1300 Bs. Aires
佐伯亥九二 竹
制
衣
造
工
販
賣

Casa "NIKKO"
Objetos para regalos,
fantasia de ultima creacion
Y. SHIMA
C. Pellegrini 740

電
話
五
七
三
五
ブ
エ
ノ
ル
デ
ン
パ
ト
リ
シ
オ
ス
街
一
九



草廣末
—好尾松

亞國獨立祭



亞爾然丁時
滿三周年紀念

力士東吉

浦合資商店

本店 大丸也一デス 市

電話 壱九壹番

金子 良平

第一店

電話 壱九壹番

浦野 兴武

第二店

電話 壱九壹番

吉義

第三店

電話 壱九壹番

大丸也一
電 ハレ
電話 ハル
伏伏久 宅管
電 ハル
物 ハル
伏伏久 壱
見見慈 戶野
電 ハル
松甚 庄幾
電 ハル
尾三忠 郎八
電 ハル

祝時報三周年

在亞農業研究會

在日本人會

在
亞蔬園藝同業
組合

25 DE MAYO 時報三周年を祝す
1927

服部定雄
リニエルス街六四九
電話二二一八

祝 時報三周年紀念
一九二七年五月廿五日
日本野球團

紀念號 發刊の辭

の吸收をさす事の出来ぬ同胞諸子に取つては恰も暗夜に燈火ふきが如く自然治社會の実情に疎く激甚ら生存競争に於て敗を招くに至る事は今更ら云ふまでもあ、處である。

本紙主宰者は確に鑑みる震あり困難ある邦人新聞發行せ故て一經營三年今日に及んだ所次である。

既往三ヶ年に於て金權に頼らず官僚に阿らず労働者に偏せず只管中立の立場に在つて批判論述する事に努め一事に就ては公正ある批判

社会の毀誉褒貶、批判家批評は吾人の意とすべきは創刊滿三周年未だに創立紀念号を發行する事も多きの事を持つて抱負ある。理想もある。

吾人の前途には尚ほ為こねば

下に吾人の使命に向つて進ま

のみ。云ふ来るべき發展への歩みに

於ける実際について見られん事

もあら。理想もある。

鮮明に抑へ立て、唯一の讀

者でも存する迄亨う恵氣の

下に吾人の使命に向つて進ま

のみ。云ふ来るべき發展への歩みに

於ける実際について見られん事

もあら。理想もある。

鮮明に抑

一九五七年九月廿五日

建國紀念日を迎えて

(2) 亞不然丁歷時數時，百首立社八十昌。

亞爾然丁時報
建國紀念日を迎えて
年々歳々人同ドからズと雖銀
洞々畔に咲き四ふ秋草の花相
似たが如く歳々年々亞爾然
丁共和国市民の上に環り来る
建国紀念日に臨んで百十有七
星霜の告独立自由大旆と
抑立て、雄々しくも奮起せろ
憂國の志士、革命の傑士、建国
の義人達による不滅の偉業
輝く功績に向て心からぶる感
謝を以て、大亞国今日の隆盛
を祝、一旦亞国将来の興隆を
祈願する思ひは同ドであらう。
吾等在亞三千の大和民族も亦
亜国民と同ド思ひに於て光輝み
る亜国独立の紀念すべき日を
祝福する者である。何とかば
日亞の国交日に月に、農やかに
廿有餘星霜に亘る在亞同胞
发展史に於て未だ曾て吾等
の自由を束縛され平和を侵害
され一事ふくて今日に及び極
めて自由に極めて平和に而てそ
れで居るからである。
故に吾等の心には何等の嫌
りも無い何等の不快もしく
國運の進展を示して遂に四種
毎アメリカに於ける隣の文化
國とて將た又世界に於ける
この不自然さもふくらむ重なる國家として見らるに至
て今日の佳き日に鳩
んで衷心より
亞國萬歳白
の歎声を發する者で
無の流れで居る如く一國々民の
胸裡には必ず民族的独立自
由の生命躍動が一貫して居る
ことは今更う笑々する所も非
夷である。而と國運の消長
家的能力強き國によつて自由
独立が束縛侵害せらるゝが如く
華あらんか其國民は卧薪嘗膽
常に自由を求め、独立を希
みて苛虐ある壓制名下の霸
料を脱せんとするは蓋へ間
淘とに當然ぶる事である。
紀元一八一〇年五月廿七日一此
の日こそ西班牙王國の治下に在
たラ・プラタ植民地の人々の胸に燃
ゆる自由独立の炎々たる焰がえ
上つた時である。
革命の反旗が、パンハスの秋空に
翻つた日である。南米四海同
足は是れ亞國のためであらねばか
らぬ此處に於てか東に忠良ある
君の健全ふる發展と祈る
國に同化せめて目醒ましき
國運の進展を示して遂に四種
毎アメリカに於ける隣の文化
國とて將た又世界に於ける
たのである。重なる國家として見らるに至
に位して激甚なる列強の國際戦
の渦巻きを外に修々國力の充実に
の歎声を發する者で
努めつてゐる。洋々たら前例のある
國である。今ふほ開発す可き多
くを有つ特東ある國である。自由
の國であり平等平和の國である
殊に我が帝國とは共國交を結び
て此の方特に親交ある國である。故
吾人は亞國がやがて近き将来に
於て世界的大明の中心となるの日
に在る事に喜び感謝する者で
ある。而て此将来ある亞國に在
る吾等在亞同胞はよく祖國に在
る窮屈を忘れ、事ふく内は民族的
自覚、自尊の下に相結束して精
力に富み外は常に對亞國
人々の親和融合に努力して亞國
化の進展に寄與貢献する處
紀念祭に望み吾人は限り
天日うらかに晴れて清爽た
良心は國境を超越一人種的
差別の外に在るが故である。
さ如何ともふく難く自由ある
日々うらかに晴れて清爽た
良心は國境を超越一人種的
差別の外に在るが故である。
然り而て吾人は進んで帰化し
て國運の進展を示して遂に四種
毎アメリカに於ける隣の文化
國とて將た又世界に於ける
ものである。

祝
時報三周年

田村良雄

陰山

大野勝重

角南利三

(3)

号八十五白第 費時丁狀爾亞

日五廿月二年七二九一

Himno Nacional Argentino

CORO

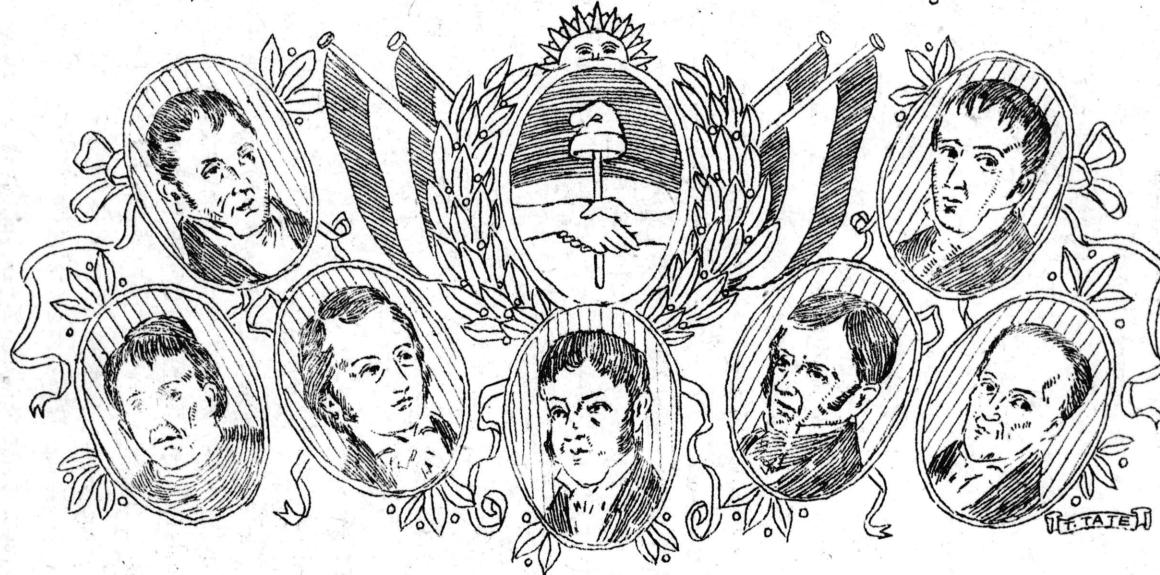
Sean eternos los laureles
 Que supimos conseguir,
 Coronados de gloria vivamos
 O juremos con gloria morir.

(1)

Oid i mortales! el grito sagrado:
 Libertad, libertad, libertad!
 Oid el ruido de rotas cadenas
 Ved en trono a la noble igualdad.
 Se levanta en la faz de la tierra
 Una nueva gloriosa nación,
 Coronada su sien de laureles
 Y a sus plantas rendido un león.

(2)

Desde un polo hasta el otro resuena
 De la fama el sonoro clarín,
 Y de América el nombre enseñando,
 Les repite i Mortales! Oid:
 Ya su trono dignísimo abrieron
 Las Provincias Unidas del Sud!
 Y los libres del mundo responden:
 ¡El Gran Pueblo Argentino Salud!



譯和歌々國亞

(2)

聽人間よ
 南極の果てより北極の果てまでも
 とゞろき渡る名にし負ふ喇叭の鄉音ぞ
 斯く鳴りぬ
 鳴呼さればこれに答へぬ萬國は
 大亞爾然丁國萬々歳。

(1)

聽人間よ
 自由の絶叫
 聽け物凄き音を、鐵鎖は断たれぬ。
 見よ玉座に登れる貴き平等を
 大地の上に起ち上りし
 新しき光榮に耀く國は
 顎に月桂冠を戴きて
 脚下に獅子をひれ伏せぬ。
 勝ち得にし月桂冠よ永遠なれ
 荣冠と共に吾等生きん
 さうすば誓はん榮譽り死。

亞爾然丁時報發刊三周年を祝す

古今重綱

の努力に敬意を表
し其健在を祝賀
する。

料品の供給国であり他方が製造品の輸出であります海運国である事情から将来必ず異常の発達を来たすものと思はれる日並親善は両国の外思はれども

於て私は諸君に感謝する
今後も御互に努力して二人の
とも多く亜国人の友人を作り
其一人へ出来る丈、好感
を興へ精神的に益々日亞の

祝時報三周年

小
栗

吉 橋 好 太 郎

宮崎八郎

五太子忠

胡王月豐吉

工藤金也

高 橋 坂 衛

佐甲田兼藏

亞爾然丁報時第百五十五号 一九二五年五月五日

(5)

余の赴任當時即ち元ニ五年末に於け
る亞國の經濟界は同年六月以降セレ
アレス輸出の減少に災されて稍不振の
状態に在つたが市場に小麥の佳良と
傳へられて内穀の輸出も益々好況を
豫測され昨年自頃は輸出当番の
市場出廻りと先見越して各銀行者
に輸出為替資金の準備を萬一ペ相
場本た破綻を帶びて市場を活気を失
するに至り經濟界の危難を目前に
蒙みて居た折柄輸出の大衆たる結果
收穫間際に至つて雨量過多の結果
出害害ニシニと發見「サンタヌ」と
ドバ」兩州の減額百四十万噸を華
頭に他の谷物も失に失れ産額の激
減品質不良の声が傳へられて依然
亞國經界は色々失つたのである。

印度のキーラー銀行の如きリーブン
グ・バンクがあつて之が指導銀行と
あつて為替市場をリードすれど
各銀行は之に隨ひ手調比較的
一取一易きも當亞國に於てはバンコ
デラナシズンあるモアカルビジネスア
スであつて為替事務の取扱ひは殆ど
場本た破綻を帶びて市場を活気を失
するに至り經濟界の危難を目前に
蒙みて居た折柄輸出の大衆たる結果
收穫間際に至つて雨量過多の結果
出害害ニシニと發見「サンタヌ」と
ドバ」兩州の減額百四十万噸を華
頭に他の谷物も失に失れ産額の激
減品質不良の声が傳へられて依然
亞國經界は色々失つたのである。

田村良雄 横濱正金銀行支店長

國の市況は悲觀報
一度傳はるや忽ち
人氣浮足となり急
變的に市場崩壊
さ見立はとつ交面上於
て當國民性の輕
薄さを諸君もおで
ある。而と好況の
聲一度傳はるや直ち
に調子に乗つて身外
不相應の發誓を為
して貯蓄の習慣が少
い。而と好況の
聲一度傳はるや直ち
に調子に乗つて身外
不相應の發誓を為
して貯蓄の習慣が少
い。

FUJISAKI & Cia.

Importadores
Exportadores

Tacuari 718 Bs. Aires
U.T. 5249 (Rivadavia)

藤崎商會
市内タクアリ街七一八番
電話 五二四九 リヴァダヴィア
輸出輸入商

祝
亞國獨立三周年
時報

Al Gran Pueblo
Argentino, Salud!
25 de Mayo - 1927

ANDO & CIA.

Rivadavia 770
U.T. 1570 (Rivadavia)

Bs. Aires

IMPORTACION Y
EXPORTACION

Casa Natuz: OSAKA

(以下次頁にづく)

(6) 第五百一十五号

一九二七年五月廿五日

PHOTO NIKKO

S. Sato & N. Sugiyama

se encargan sacar banquete,
casamiento y toda clase de fo-
tografía

Sarmiento 1373 Bs Aires
DIO 3° U.T. 37 Rio. 8684

BAZAR JAPONES

Rivadavia
8454

ペドロ小園
指宿一雄

Bs. Aires

『36』ビヤール
代理人久慈忠
社会久慈忠
内日本
東京開業

BAZAR JAPONES

Rioja 1879 Bs Aires.

AL GRAN PUEBLO
ARGENTINO
SALVD!

(25 DE MAYO, 1810-1927)

市内
入月
武
知則
白井

（前頁より續く）
力ある効果があらむと思考する者で
ある。國庫の収入を計ることを目的
的とすれば其財源は單に關稅のみに依
らずとも直接稅即ち所得稅法の実施
が如きものもあるのである。

若一之を断行するときは一般国民
はより安價なる商品を消費
し得らる、さへて生活費の節約
と並び之が節約は單に国民生活
の安定を與ふらばかりでなく資金
高率の改めて難事とせらる居
る工業の勃興を誘引する事も出
来るのであるが亞國に於ける有產
階級即ち富豪の潛勢力は、
意外に強大であつて政黨の勢力
圈内に拡大可からざる地盤を
有するとして所得稅法の実施は
すこぶる難事であると聞こ居る

（前頁より續く）
國庫の収入を計ることを目的
的とすれば其財源は單に關稅のみに依
らずとも直接稅即ち所得稅法の実施
が如きものもあるのである。

西班牙王国の羈絆を脱して二百有十七
年既に政治的には立派に独立一旦は國際的にも
漸次重きを増すゝあるけれども今尚ほ經濟的
独立の域に達して居あり事は亞国文化の進展
さて淀まゝて居る。

然り而て經濟的の独立の根本問題は政黨政
治腐敗の廓正、國民教育の改善並に普及開
拓の堅実ある發展を祈り亞国独立祭並に
亞不丁時報創刊三周年に對て萬勝の祝
意を表す者である（在文責記者）

チヤカフーヨ市
此藤田友八

祝

Café Japonés

CHACABUCO

F.C.P.

吉峯佐之助
壽
遊佐

偏昭的曰亞の關係

卷之三

矢島群平

植民地に於ける新聞紙の經營は
決して易々たるものではあるが、依然然
と時報が今日創刊滿三周年を記
せんに至つたことは衷心慶賀に
堪れまい。今後益々堅実公正に其
使命に耐て躍進せらるんことを
希望する者である。

順調の途を辿りつゝあることは何人も之を認むるが、憂いもあって今後も年と共に其度を増し加へる事と信ずる者である。去りあがら是は統治的考察であつて今少しく深く立ち入つて考へて見るが、ばほだ處ふれら日並両國の關係は今あは偏昭的であることを否み難い。即ち日本側はその對南米政策にも依らずあらうが、兎に角進んで亞国に対する理解に努めんとして年々解説の視察旅行者が来華し、貿易業者も澤山と並は行かぬが、相当地に来て居るに係らず、亞国々民の日本に対する理解は極めて幼稚なものので、あつて何等ぞの與相に觸れて居るやうに思はれる。

ものである。斯く觀るに本邦は日本
よりは先皓々として亞國の天地を照
して居るに拘らず亞國より日本へ向
てこの光は皆無と云ひ行かが極めて
微弱も其事恰も淡き目光の如き
感がある。

關係長群平あるか實に微々たるものである。即に、我船舶業者によつて日本と西國間の航路が開かれ、居間に拘らず之れが利用せし今尚ほ問題となる程度のものである。島々日本よりの往航は毎船、船客、貨物等が相当にあるけれども其の復航には

亞洲然丁時報の創刊三周年
を祝一能く木鐸(リーダー)たる
任せ盡されんことを望む
先達の必ありて
雅の川

寄都祝
名に一貢ふ都の風の清けれは
くさ野の末も塵はあからじ
無逸

本の智識では却々危險性があるもつと多様の亜国人によつて、我日本との眞價が理解されてゐるものであら。然う、これが故に斯く日亞両国の關係が夥しく偏照的であるがごとくは、何と云つても地理的に甚だしく遠隔であることが最も重大である理由である。試みに倫敦或市の日本訪問に備て感ずる相違より生ずる不便の度をさうと共に日本人の並國に来るまで充分ふう力を發揮せらうにいたしたい。

是れは本題と關係ないが、同胞諸君は相當ある發展をして居られて非常にひ満く

年屆三轂時祝

田中数好
七草木萬之丞
本間鉄雄
大西佐一郎
岡田領治
鈴木驥一郎

(8) 壬八十五百第 載時丁然尔睡 日立午月二年七月二十九

體國獨立の起原

檉葉贊雄

にあしつつあった。越えて八、九月に渡ったが此由が本國に傳は
亞國独立案に臨み時報創刊滿三周年紀念號紙上に於て榮譽ある豆爾然丁共和國獨立の起源に就いて簡短に述べて見たい。
却説南米獨立前に於ける西班牙の敗走退したる事實は「西軍又恐るに足りず」に於て記載された。革命軍は五月廿二日使徒号で南米へ向うた。船は二月廿四日に出港した。船頭はモントン・デオの後兵士在留の西班牙人の反対に屈せず武港を開放して英國との通商を結んだ。船は北方に逃走した。決然起らるける最後の艦橋にして八〇九年には地中海にて沈没した。船頭モントン・デオはモントン・デオの後兵士在留の西班牙人の反対に屈せず武港を開放して英國との通商を結んだ。船は北方に逃走した。決然起らるける最後の艦橋にして八〇九年には地中海にて沈没した。

にあしつつあった。越えてハーバーを擁護したが此由が本国に傳は
年英國遠征隊の武市を占領するに及ぶや時の總督としてシスネロ
は北方に逃走した。決然起り於ける最後の總督にしてハーバー年に
健兒はモンテビデオの援兵を遣した。彼はラプラタ植民地に當
るリュエル軍と合して英軍に當き開放して英國との通商を結ん
水努めて遂に凱歌を挙げた。居る。一方シスネロの末仕と共にリニヨン
ジヨ軍軍屬の兵力、強く英軍をルはニルドバに撤退し後革命軍の牛車に殺された。革命軍は五月廿二日使をたる事實は西軍又恐るに足

では西、本國に忠なるばかりでなく華
命園に反抗するものもあるので本地
患征隊を派して廢帝兵火を交え遂
に六年後即ち一八六七年七月九日のトフ
マン會議に於て獨立の宣言あるし
益に始めて名實共に備はれる華¹
政府は生れたのである。

尹文子

河野通岱

片山訪意

祝時報三周年

能勢忠平

西野七子

西野七子	羽生友志	能勢忠平	祝時報三周年	片山誠意	河野通岱	伊藤金二	から荷つて擲筆する (兎)	以上を以て本稿を終り光榮ある今日の紀念日を祝福し國運の隆盛、日亞國交のより濃やかうんことを心	益に始めて名實共に備はれる華、マン會議に於て獨立の宣言をさるし政府は生れたのである。	は西、本國に忠なるばかりぢかく華命園に反抗するものもあるので地に六年後即ち一九一六年七月九日のトウ
------	------	------	--------	------	------	------	---------------	--	--	---

祝時報三周年

萬全秋山櫓兒渡廣闊有中樞平
水 櫓葉腸口王辺瀨田 西田川
米民新龍喜貞安寬一 藤 藤修末
次三一雄平治治郎吉一友

日五廿月立年七二九一

處女訓

本間仙骨

畢竟彼等は已れに如かざる者と
はて有之あり。我は唯物論者故
教化さんとの大慈大悲の心より出で
しりて頻りに唯物風を吹かし。我は唯
しかり。然れど自身と向等の悟道

心論者ありと頻りに唯心風を吹

き有する覺者に對しては宣教し能

かず。其の言ふ所は正々堂

から

はざらふり。否も宣教致す必要は毛

モ傾聽に便す。然れど彼等は併

頭無之あり。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

等の如く天と天ト唯我独尊と呼ぶ

るまでの道程に逼ざすと。

也。

爲め百尺竿頭更に一步を進むる

合ひ試に釋基をして一堂に會せ

勇を鼓せばにはや。若し丈六彼

も世界の民と民との間には等公無

めよ。彼等は互に何等の争ふ所も

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は君子と君子との間には

よく喜々として握手し世界十七億

等にて一度勇を鼓し其妙に達

之あり。之は聖人と聖人との間には等

の人類の盲目を、隣ヶ敵を清民

の争ふ所も互に至るべし。故曰

以無之と同様ぶり。凡て人其妙に達

の方を講ざるや必せり。嗚呼彼

等公は之れ進歩向上の大極に達

也。又争ふ所も、争ふ所も未

(11) 号八十五百第

報時丁然爾亟

日五廿月五年七二九一

祝
亞爾然丁
時報
三國年
九二七年五月廿五日
松田五郎

昔の世人は泥棒の種の墨書き
るが如く戰争の王子を永遠に殺
えざる事なるべし。之に反し吾界
宣たらぞを望んで向工發展致す人士
の続出致ち節は戰争の王子も
自然に消滅致し吾界は吾界の
人の共同樂園と相成るべし。所
謂人種的偏見や国籍別觀念
や宗派的迷信や階級的差別を
脱却して哲人を思ひ大政と料理
するの曉に至り初めて眞の文明と
平和は此世に出現致るべとなり。

The image shows a vertical calligraphic inscription in seal script. On the left, the date '九二七年八月廿五日' is written vertically. To its right, the characters '立秋' are written in a larger, more stylized font. Below these, the characters '中華民國三十六年' are also written vertically.

甘棠

北島寛之

ヨリ
一
二
三
四

A decorative vertical border on the left side of the page. It features a series of stylized, symmetrical flowers arranged in pairs along the top and bottom edges. In the center, there is a vertical column of five horizontal lines, each ending in a small flower-like terminal. To the right of this central column, the number '100' is written in a large, bold, italicized font.

小説 **バイクトリア街の老嫗**

エクトル・ブロンバルグ作

方外生譯

一九二七年五月五日

プラナヴィクトリアには勢のいい樂隊の音が流れ、聖イグナシオ寺院の鐘は慌てしく鳴り響いてゐた。

ヴィクトリア街のアーボロ路を危ぶむ

アーボロ足どりで歩く一人の老婆は

「お、せせせ五日よ、

とつぶやきながら歩道のはとり

に腰を下した。その老婆は温めっぽくなく溜息を漏した。男は物々しく老婆を抱き抱え起して、ペルー街の鐘の響きに物思はれ氣る顔をうぶだれた老婆は

黒い髪や瘦せた青年の胸に包む青白の徽章一ヶ月、アンソニスコと聖ドミニゴ西寺院の鐘が林し、そして古びた看板が見つめた。プロダーレン会員の一を見みがうく鳴りだした。夜會が始まるうしくラジオは二月廿四廿五日祭を迎へたが、アーボロの窓には既にたる光が輝く不夜。若殿、二月廿四廿五日にはもうか入りますを機、城を呈してた。新羅ばかりに登表したところ現はれことなつた。

「端さん達者か」と物覚えのいい老婆は思ひ出したように

「あ、若殿よ、わしゃ達者ふんだが大

きの張つてかるアーボロの心は、アーボロペルー街のあたり走り回った。インサイ

トの進行曲が勇ましく流れて来ると老の方え進めて頭を男の胸にもたれかがう

婆の心も少しほれ立つて来たのが明るい表

「若殿よ、婆の夫は智利へ戻りに行つま、博きその顔に見られた。西五歳にちら

そ、まあ、婆さん僕を覚えるかな、アーボロサス将軍に辻され、一番妻を大切にして

寄つてたつた一人……」

「お、せせせ五日よ、

ほこりにまみれた駄菓子の上き吹く宵

「お、せせせ五日よ、

とつぶやきながら歩道のはとり

に腰を下した。その老婆は温めっぽくなく溜息を漏した。男は物々しく老婆を抱き抱え起して、ペルー街の鐘の響きに物思はれ氣る顔をうぶだれた老婆は

「お、せせせ五日よ、

とつぶやきながら歩道のはとり

に腰を下した。その老婆は温めっぽくなく溜息を漏した。男は物々しく老婆を抱き抱え起して、ペルー街の鐘の響きに物思はれ氣る顔をうぶだれた老婆は

「お、せせせ五日よ、

とつぶやきながら歩道のはとり

に腰を下した。その老婆は温めっぽくなく溜息を漏した。男は物々しく老婆を抱き抱え起して、ペルー街の鐘の響きに物思はれ氣る顔をうぶだれた老婆は

「お、せせせ五日よ、

とつぶやきながら歩道のはとり

に腰を下した。その老婆は温めっぽくなく溜息を漏した。男は物々しく老婆を抱き抱え起して、ペルー街の鐘の響きに物思はれ氣る顔をうぶだれた老婆は

及川晋次
森川興十郎
仲間平助
出ロ貞三郎
鶴尾考樹

森川興十郎
仲間平助
出ロ貞三郎
鶴尾考樹

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

祝壽報三周年

伊藤清蔵

原田四郎

塩澤長助

門田勇吉

藤井精四郎

田中耕次郎

兄弟一同

祝壽報三周年

人生の戰線に立ちて

始ど何れも、最も
ひに由つて生み
出されてゐます
その時代に於
て最も輝キ
滿足尋ねる最の各の事
始ど何れも、最も
ひに由つて生み
称へて居ます。前者は止み難
き義憤のために立て善戦し
てくれた者も勿論あります
が、中には自己の武力による捷利の
財とそ養生に供いたるの世界大乱で
ある矛盾であり最も愚かである
ます。私は後者を人生の闘士と
社会的にも民族的にも国家的にも
常々戦はねばなりません。
社会的にも民族的にも国家的にも
何故ならば人生の幸福は生命の確
保、仲長に在るのに生命に代入の
あの始ど全世界を挙げて砲煙彈
雨の巷と化一巨多の人命と夥しき
に生命を以て一即ち血に報ゆるに
を以てする。戦争はそれ自身に於て
ある矛盾であり最も愚かである

秋空高う爽かに晴れ渡りし今
日の此の日亞尔然ト共和国独立に
の紀念す可き日を祝ふ青白の戦ひ人々の中の戦ひ一人即ち英

清風を得べくため、体異的堅心と功名心のために、獨つて居る者が澤山あります。故に彼等は弱者を虐げ、食者を酷使し、的戦争は、戦勝国と、戦敗国との間競争であります。事業、戦商業、調の中に人生を進化せりのとすらやうにあつて參るります。是れは武力に代へるに頭腦、智識を以てする行為であるからであります。

國旗が軒毎に届々として心地雄あります。

弱者を虐げ、強者が食者を醜い使し
罪あき、民衆の前に血を流し骨
を碎かれて居ますが、復讐者の
場合は心中、自己あく野望ふく
唯永遠に輝く真理のため四民救
思ひます。

的戦争は、戦勝国と戦敗国とを問
はず、ひとく不利益であり不幸で
あります。現在演せらるつ、あち
あつて結局人生の悲劇以上に何等の
價値もき事に感付いたがらうである
此戦争のために日毎どれだけ沢山
人が死んでゐる事でせうか。私は
頭脳智識による戦争で平和の心

雄々しく立て自由独立のために
戦つた七派人團の英気みよきりし事は歴史が之を証明して居ります
人々の心事を臆おくして抑おさへ難むずかず。斯う一た意味に於て私は
國元こくげんに「十三年春正月、久々佳日良年大吉」と書いた。

唯永遠に輝く真理のため四民教
濟のため人類愛、大慈大悲の抑
へんとて制え難き勇心の逆
がまゝに立つて強者と戦ひ貪
者弱者の味方とぶつて而も自ら
為すつた困難ある境地に向つて進
價値をも事に感有いたからである
思います。私は現在の國際聯盟その他
機関に依つて将来戦争はあくまでも吉ふがまゝに立つた迄のことであり
て私はその思ひませんが、故くとも戦争を
止めて私の見解を述べすれば決して
平和的では無いと言ひだらけであります。

若一もの時 西班牙三国西轉 武力的英雄に絶対の崇敬を
絆の下にあつたラ・プラタ殖民地 拝て居た少年時代を西(きて)
が勤々と湧出で参ります。 感謝する者であります。

強者と弱者の食
者弱者の味方とぶつて而も自ら
は不遇悲惨の生涯に専心から
ある感謝もて處へて居ます。
人生を一つの戦場と見る考へは古
くから東西ともにあつた様に思はれ
薬製造業者及び一部軍閥の戰
とは思ひませ人が戦くとも争を
為すつた困難ある境地に向つて進
みつあることは之を否み得ぬ者で
平和的ではあると言ひたのであります。何故
ふうば、武器に代へ
ります。恐らく現代に於て戦争の
之れあらん事、さ希小者は兵器彈
は、武力的、戦争と云ふく若くは
れ以上に人生を深刻ある苦惱に遭

実社會の渦巻く戰闘に接する爲め、——の如きの體に本能の目醒め——
自由に憚れ独立を求めて上まぬ
熱情——があつたからこそそともつと精神的英雄（反りに
奮起して戦つた志士があつたふ
斯る名を附けて）をより出来得し

人生で一つの戦場と見る考へは古くから東西ともにあつた様に思はれますが、殊に現代文明の活社會に在つては人と人、民族と民族、事業と事業、國と國との間に最も深刻なる呻きもて戰ひが演せらるゝ個人に於ける殺人が罪悪であるふうの如く、これは實に此商譽的戰争の所産ではあります。されば上に人生を深刻ある苦惱に遭つてゐるからであります。

輝きを祝福するの光榮は持ち得られつかた事でせう。前者は一國のため一民族のため時代のために戦つて人をもつたが、後者は裏裏のため全く貢の二方

業と事業、國と國との間に最も深刻なる呻きもて戰ひが渙ぜられて居ます。まことに人生は一大戦場であります。我等は戦はねばなりません。依る人文発達に代へるのに平和的戰争に由て人類生活の進化向上いた。そこで我々は數はねばからぬ罪悪であることは考へぬ者ではありますまい。私は思はります。今此戦略的戰争の行詰りには、我が西去に於ける武力的戰争にめどであらう」と

も今、夕日を待てば夕暮れの風景がまた美しい。一葉一葉で燃たる光を放つて居るに、戦つてくれさせて彼の強さを靈のものは、戦ひてふ文字であり、的命は人の心臓から心臓へます。まこと幾度々の文化は、流れで今は戦つてくれて居

す。我等は戦はねばなりません。依る人文発達に代へるのに平和的
戰の者にのみ勝利の栄冠は與え。戰争に由て人類生活の進化向上
を圖る事の方がより賢明にて幸福と言ひました（次下次頁へ續く）

日五廿月五年七二九-

が私の斯く言った眞意は大て
戦略的戦争の謂ひではあります
とは實に眞理のために戰はる
うとの謂ひであります。
然り私共は悪と邪とに對て力
戦、善闘せねばありません。正邪
善惡の戰ひは人間の創造と共に
に演じられてゐます。そこで人間
の有らへ限り繼續されてせら
ば、人生を眞の平和に眞の幸福に
導く可き戰ひは人を造る若に國
族を滅ぼす社會を頽廃に導
かんとする惡魔との戰ひであり
ます。眞理が高潮された時代
が何れの国でも興隆一途の史上
の事実が之を証明してゐます。
人と人、國と國との醜い爭鬭は
目に見えぬけれども人心に社會に
國家に潛む惡魔の所業であり
す。地上の人間が盡く眞理
に立ち歸つた時、人も社會も國
家も眞の平和を享くのみ得られ
ますが恐らくは斯る理想境
は此地上帝実現一得られ無いこ
とでせう。然る、之を人生終局の大
理想として把握しこれが實現
のため力戦して行く事はそれ丈
に吾等の社會がより善くある事
とあらざれう。

が靈眼には判然と見られます。彼方に在る美なる概念的言葉
私が静かに私共の内で瞬めます。の中に在る所ではふく此の内ある
あらば惡魔の存在を知る事が出来ます。
それは私共の内に善をあさんとの思
ひが起つたとき、爲す勿れ善事を、
爲せ惡事と、人は見て居る所とさ
やく声があります。是れ惡魔の
声であります。そして惡事と
爲さんとの思を抱く時、
止せ惡事と人は見ざれど汝のすす
惡事を自身は知つてゐるではあ
か。神は限なく見てゐるではあ
いかぬとの靜かなる嘆きがありま
す。是れ神の声、良心の閃きで
あります。
人生の戦いは實に此處から始そ
るるのであります。江は此自身
の内ある惡魔に立ち向へ、そして
戰へ勝ちを得る迄、私は斯く
他人に勝つ者であります。此の自ら
叫びます。自らに捷つ者なやがて
世界であります。私共は本が
ために戦なねばならぬのであります
精神の自由、魂の独立、心身の解
放は實に此惡魔の征伐に在るの
であります。
私共の宗教は單に架空的、幻
想の思ひのあるものではありません。
実に日毎に体験する悔まるべき此
の内ある正邪の戦いに根柢してゐ
る所であります。私共の神本源を
されば、吾等の樂園は死後の慰みに
打勝ち得たる時の良心に恵ある
平安の瞬間であります。
私共の宗教生活は實に此實際
的体験に基盤づけられて居ま
すから、他の罵倒にビクともせ
せん。
是れ私が眼まぐるしき現代文
明の英雄の心には神に祈り英
雄の堅き信念を持つて居ます。
ロッキー山下に奮起して奴隸解
放の大運動を起したる一代の英
雄、自由の義人リーカーンは彼が
裁縛の旗を擧げんとする前夜
唯入墓地に到る。自らの為さ
人とする事の神の聖旨よりや
否やき祈り聞えに願え苦み
に苦しみて夜に夜を徹し涙と
奮起の自信を得て居ます。

又日露大戦に際し、我が滿州軍
総指揮官大山元帥の下に參謀
長として、策を立てて得た
る兒玉兼六郎・將軍は自らの
重仕の自らの力のみに依つて堪
え難きを知り、常に神明のか護
を祈り、殊に奉天の大激戦を
前にしては毎朝未明より齋戒
沐浴、身心を潔めて、皇國の大
捷を東天に祈るに祈られし
と聞こえます。

KATSUDA y Cia
Importador 祀
高勝 紀三時
會同 周年報
U.T. 38 MAYO 23 13
MEXICO 1432 - B. 46

(16) 第百五十九年五月廿九日立

〔前頁より〕
 一本の熱情で体からほど可憐がつて呂六されました
 や、貴方が日本人だから帰る譯がやふけれど日本
 人はほんとに構えし情愛のある人間や、如今で
 は日本人観賞あり、そして「送り」邊もあつ。
 おやお説が厭んだ機道へ外れたり、正直かところ私の生
 涯に恋とて名づくものは其男との關係より外には
 あるの、後にモ前にモ其時ほど男に眞剣だつことはふ
 のです。そんな風二三人が國へ是りきる未遂誓ひか
 がう夢の様に嬉ら一月餘りが過ぎた頃、矢張り好
 喜意多しだや。先の男、例の伊太利人がひまつこ
 り訪ねて來たり。私は時ほど當意したことはない、
 男は持附の恩典どうかうほ細びも語そうこのよう
 相手の男供お詫しむね、娘さうもう、娘う考へて
 もこんふ恩典を六ヶ月そこくの監獄で許す裁判
 門が恨めしかつたわ。聞けば頗る馬鹿で愚金を費
 ただけの過累とくちがひも無理もあることだらう
 途方に暮れた楊句私は自分が一ヶ月も未だご苦
 しむだ腹懃せも手傳つて恥知だの前科者だり
 と敵々悪体と並べてはやつてやつたの、然し其位
 など参るようふ奴、ぢやあ、や遂々主人に自分は旧恩
 まだ曝け出しく私を遣出しに掛つたのを、主人
 だつて私が一ヶ月も未だ監に居たことが知れでは
 無う辨解しても嘆願しても駄目よ、事情はどう
 人あ、でもそんぶ恩典に附縁はれることは、部
 えり、その日本人ですが、可愛想に自殺して終
 ひました。私が出てから十日餘りの一つ發の彈丸
 が美事に死んでゐたそうござんかにか私を恨

むだことさせう、今思へばどんあにしても二人とも
 生きる道はあったのをもの、まさか死なうと
 は気がつかなかつた私は何と馬鹿かのせう。
 危難あるの食に向つてこんな姿に、下つた今ご
 とありの男を思ふと熱い涙が止度もかく流れ
 る、斯うして泣く間だけは生命を懸けて思つ
 て長水たる君を死あせた私の不運も忘れま
 すか。貴方が笑つて、笑へば、せう、私が泣く
 のがすもの、是が今私のたつた一つの慰めです。
 日本人のお客さんとうぶのものあの男へのせめても
 つかない空飛んで行く小鳥の群にはそれぐ
 の前で泣いたりうぞ、しき……。(終り)
 の供養だと思つて、ご免ふさわ、私貴方
 思ふ時どんぶにか小鳥は幸福ふ自由の充
 つまじめ空飛んで息してはゆふき自らの
 父や母もそして兄弟などがあるであらう車を
 衰水さそしてお友達はみんな遊んでるのに落穂
 を拾はねばあらぬ貧しさにしみく涙ぐもの
 だつた。

夕日が高原の西に赤々と没み行く頃、彼は一杯に
 なつた小蕪の稻穂を携へて物も言はず口笛
 も吹かずとぼ家路に急ぐのであつた。

ほの暗い夜、見あはうし家の燈のはたゞ
 蒼々蒼々無が限りなく高う飛びてゐた。鳥
 がとりつくされた柿の木に止つて下には赤や
 黄にあつた葉が散り散つてゐた。とりハ札の
 発つた山間の田園に麦がほのかに香う芽生
 えかけてゐるのは秋にそぐわぬもつただ。
 彼は私の田舎での友達の中一番気立つゝそ
 その頃にあると貧しい農家の子供は小さく
 南米の溝に漂浪して度三年、彼は今どう
 して居るだらう。

福原　御下宿

Pension MODERNA VIAMONTES 1706 U.T. MAYO 6660 — Todo servicio de Pension = 丁度 LUNCH, BANQUETES. 午后三時より 七時迄 会合の貸席 致ります	EL NORTE Galler de Lavado & Planchado. Calle Paraguay 1317 U.T. 44 Jun. 5064 谷本兼市 100. As.
---	--

一九二九年五月廿五日

(17)

時報丁然木亞

覆面の女

モンマルトン夜話

粹庵

霧の様な雨がしつこく降る薄う寒い冬の或る晩のことです。私はモンマルトンに住む友人を訪ねて歸り途不時行きつけのカフェーに這入ったのです。何時もあらば濃い煙草の煙の中に三三の識った顔を見出しますが常よりはまけれどその晩に限って誰にも會はなかつたのです。恐らく天氣の悪かった鳥めのからそれとも時刻が大分遅かつたからであります。さやうはつきりとは覚えて居なければ此午前の一時頃だった様に思ふのです。それでも軽い匂配をした前の旅の通りを時折尋ねし私の自働車がスモーキング着けた紳士と盛装した君の女を乗せて帰ろした。運転手はラス・ピガールと走って行くのが急のグラス越しに見えて居ました。夜霧を通して火車明りのやうに緋々と輝いて居る所が有名な興樂のメンツクふんだす。

カフヌーでは最早オーデストラを終つて此所彼所に坐つて居る青年や女達のどつと笑ふ聲が消え、終ふと沈黙の中にかかに何處かのクレカウジヤズベンドの者が聞えて居たのです。私は燭ソシガレットを吹かし乍う熱いグロングをすまつて邊かに聞えて来る歡樂の聲音を聽いて居たのです。と程無く一人の素晴らしい皮の外套にくるまつた君の女が遡入つて来たのです。彼女の多才尾上りの東洋的黒眼が私の視線に出頭はした時、私は何處か見たことのある女だと吉ふ感じ起つたのです。彼女も暫くの方を見て居たのですが何物かを確めた様に一寸微笑を浮べて私の方へ進んで来るではありませんか。そして手袋をはめた手を差ししながら吉ふのです。

『あ書くだわね、貴方何をして居るの？』

『書くだわね、全く……』

答える間に彼女の素性が私の記憶に甦つて来たのです。

何と云ふ夷リ方だうう！あの素派らしい毛皮の外套、あの金剛石の指輪、見事な衣裳、二年前ご遠羅共区域で邦人畫家の丁辰と同様して居た頃の見事な、ぼうし、イベットとは何しても考えられぬ程度の夷リ方だつたのです。彼女の言ふ處に依ると君が歸國してからまた昔のモデル女に還へソ水草の様な生活を續けて居るうちにある有福なる友人と識り合ひにあつて今では近隣のアパートマンに下女と一緒に住んでゐる事だつたのです。

『今は物質的には何にも不自由して居ない、でもモン・パルナスにはねだつた時分の方が幸福だつたやうに思ふわ。貴方覚えて居ての、あのアトリエでよくスキヤキしたこと……』

過去を追回する夢見る様な美しい眼で私を見上げながら斯う言ふのです。

『お前今不幸ぶりや、友人が充分に愛して呉れるのか、それともお前が嫌いなのかな？』

『さうぞもさう、大変私を愛してくれるんでなければ、一人並と交つた所があるんだ、——吉はこの病的ふんざせラバス、言ふと彼女は吉ひ患へだけれど、更に勇気を起すかのやうに子頭を振つて又話を續けたのです。

妻の友人と吉の話はもう四十恰好の有福な露西亜の貴族ふんだす。

とある踊り場で知り合ひにあつたのがさつきからその後三度會つた後ある晩彼の泊つて居るホテルで唇を許すやうになつた。——と微かに聲を低うして語り続けるのです。

『君が晩に彼の毒的ふ事が始めて分つたんだよ、——おまえに違ひうつさる時にふると彼は急に立上つてトランクを開けると何か妙なものを取り出した。貴方何と思つて、それは一つの覆面と競つたんだよ。それから翌にその覆面を渡しあがう露西亜をつけろと言ふんだよ。まあ此人如何かじくるわと思つて、彼の吉ひおりにあつたの。それがう露西亜を終ふと素裸体ご床つよに横たわつて居る彼を見たのです。彼の眼は涙腺え

TALLER Lavado
y planchado
«Hinomoto»
Lima 489

洗濯店
國の本
小邦
兄弟

Café "Satuma" 28.
RECONQUISTA 424 B.A.S.
U.T. 2896 Retiro

兄弟川
Kurokawa Hnos.

(18) 号八十立百第 報特丁然不無

日 五 廿 月 五 年 七 二 九 一

精神性に炬火のやうに燃えてゐたわ。おゝあの時の彼の眼一と彼は雙腕をうぱし乍ら早く側に来させしてその鞭が打つて呉れ、思ひつきソ打つて呉れと良頃するのさす。全く氣味がよくなつたわ。でもその晩は舞ふシヤンパンも東へや来たので東外に電気ががごと軽くホーンと打つて見たり、と彼は歡喜に震へる様に半身を持ち擧げ乍らもと強くもと早くと詰ふべしの、妻がまわすに打つやうにやもうもの十分間ばかりも飛のぐだじだにあらゆる。やる間彼は空虚のやうに "ma chou ! oh, ma chérie ! C'est tout à tout comme elle -----" と声續けて居たの、と彼は懶らうと溜息をつくべつたリと双腕を參つて外に投げ出したらばあつませんか。妻驚いたやうに驚いて見つたのがせめ。まゝと思つて、鞭を投つて寄つて見ると彼は足腰を開たまゝからすがる聲で有難う大に有難うと言ふのさす。そして握り始めを興へて水たんごぼつと安神したんだすの、それから妻に床に進入して明朝忘寝ろと言つたわ。その他何も要求しないのさー。で彼の言ふがまことに彼の腕に抱がれて朝の土時頃忘とびつおり寝たわ。ねえ私が男ふくさせう――

彼女は斯ふ言ひ終ると先づ舌を切つたのさす。私はそれは特に妙ふ事實ではある、案外に舞山にある事かんだと答えてやりました。

足がそれだけではふうよ、その動機が素的なんぢちゅ

その友人と言ふ男がまだ露西東に居た頃は、今から十五六年ばかりも前のことふんだ相ださう) 彼は或る晩、公爵の假裝舞踏會に呼ばれたつた。さす、その晩彼は踊り相手にいた假面をつけた美しい女と恋を語つた場句、とあるホテル(董貞き破るに至つたのさす、其時女は頬とて露面をとるのを拒んだのさす、と彼はその美しい顔を見たのあまり、無理矢理に面を奪ふとした時、女は机に持て居た銀の細枝で強くなりつけたのさす。と彼は結局女の素性を極める事が出来る、と別れたがさすが、それが遂に永遠の別れだつたんださす。

彼はその後永年の間、彼女に再會せんと探し廻つたんじきけれど、如何して見出しが出来なかつたんだ相ださす。それ以降、舞踏会に来てからも、なぜか革命を起れとかつ拂蘭西に来てからも行きあたりばつたりに出食はず、又を相手に過ぎじ日の短ハ供し致命的か恋を思はしては満足して居るのさす。

彼女は斯ふ語りと終ると自ら腕をまくつて金剛石をちりばめた腕時計を眺めたのさす。もう午前の三時だつたのさす。私は再會を約した上、自衛身を取つて彼女を送つてから歸途に就いたのさす。もう八通りも遅く、殆んど絶えて寂寥たるブルガールを舞つぱらんがギックザックを描き乍ら通つて居るのが見えて居ました。私は車の中へ

素裸体のベットが横面きつけ細拭き振りあ
げ乍ら歡喜に呻う男を打ちのめす有様を頭

詩小煙堯民

志士
人

その頃一

その頃一
奥山に
ほそぼそと
煙を見た
屏

あ、鬼の山は哀しい。

秋は深し 三太郎

秋は、遠く
屋根屋根に
煙り、更けて逝く。

市内ユリエンテス街 二五二九	御下宿	光岡多つ子	御 幸	料理	理	祝時 記三 月半		半	La Japonesa Gintoreria	Savado & Planchado (Suc. № 2.)	Paraguay 2079 U.T. 41 Plaza 3170	真朝 穂	王	展
-------------------	-----	-------	--------	----	---	----------------	--	---	---------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	---------	---	---

エルナシダリア人街
一六一三番

想

角
笛

益水 てゐまち。

凡さんにお逢ひしたら、心の事から軽く解放

小悲哀 左の手

ニトリニミ扉の外ごかあか音が……
と尋ねし。手が彼女を抱き上た。

さわだ喜びを分つことが出来ると思ひます。

石川義雄

桐原茂雄

福田勝市

中野三定誠

坂田新吾

糸井一助

生原一郎

生原義雄

(20) 第五百五十八号 著者丁然爾ア 日五廿月五年七二九一



初秋雜唱

や 3. ベ

逝きし子のうつしゑの前に
静かに香を燃く夕べ

あゝわう心何をかふしみ
行を祈るや

燭きともせど
秋の夕はくらぐ

香を燃けど
秋の夕はくらぐ

燭の光のかそけさぶ中に
ゆらぎ昇る香煙の中に

あゝわれは立ち
行を祈るや

煙
草

男が燐すき擦ると同時に
女がこし首をさしのばせば

衣 子

さつとほのあかひ光る
その半面を浮き出させる。
少ししかめて
白い煙をほとめ
さて「ありがとう」と言つたがどうか
眼はそれうれしく笑つてゐるが

少しあつて
白い煙をほとめ
さて「ありがとう」と言つたがどうか
眼はそれうれしく笑つてゐるが

白い煙が

小さく卓をはさんぐ
向ひ合つた二人の間を
柔らかくほのかにだしてよ

風

秋の日の美しさラサに
二人の男の子が

樂しげに風をあげてゐる

ママア 何故風は男の子ばかりの
玩具か
私の娘が私を見上げて聞く

「お子よ わたしも知りたい
何故に父の子は風をあげてはいけ
ないのだろう」

答 座高くほがうかに寐ひ上る、風は
あへての子供の悦びそのものに

Cintoreria
LA CRISANTIMO
Catamarca 1186

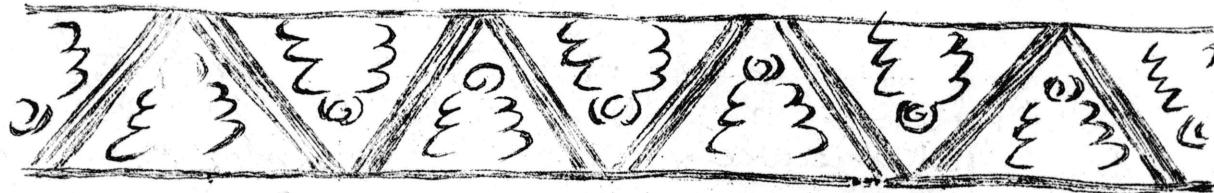
根本 次根 本田 廣吉

物 案 たせ くわ

提時報二周年

“EL ZOKIO”
Cintoreria Jonesa
篠原勝衛
URUGUAY 1033 U.T. Plata
SUC. SAN JOSE 469 U.T. Mayo
7709

Sastreeria
“EL TOKIO”
URUGUAY 1033



被つ着物をさせうて育つた
母の稚い日さへ、
あ、風をあげる少年達が
どんちに黄次しかったうう
あつ空高く昇って昇つて
しがも忽然と下界を眺めてゐる
羨しい風
憎らし風

娘達よ、風が吹ければ風を
買つてあげよう、
私の揚げぢに暮した風を、
お前達こそ心からまで
空高く高くあがる様子
母所

貧しさ

みつ子

夫よ！
今日の日も
又、えぬ
はの時々夜を
語るべく、車の
ふければ、
過ぎし日
恋を偲ばん
貧しさに幸のふければ。

詩二つ

初冬雜詠 京太郎

○わが胸の緋まうざれば秋の夜にとつぎし
君の匂き見る

冬 冬

○都のどまけれどみじくも我れ
この冬を味はんとはする
○霜が寒くふどとさりげなく朝の街
き友と急ぎぬ

老いた 太陽と

○仕事おへて歸る黄昏、街角のカツエー
の灯に心ひかる
○何處より何處へ行くか薄暗に遠まく
くまだ口笛を吹く

冬の 街路樹

○物思ひ物思ひつゝ秋かけば生命かくし
もアカシヤのある
○カサ死ふばあ、このまゝにわれ死ふばかく
思ひみぬ眼をつむり見ぬ

冬の 遠雷

○空見れば空に秋あり地を見れば地にも
声あり淋しみの子よ

冬の 雷

○雲間もる月光も寒し隣り家の白壁
青くかづ隈どりて
○眼うめまに起きて算とれどかく
とふれルば一字もかづ

冬の 雷

○寝しみを抱きつ秋の公園にしづ聞き
とれぬ物のさやぐき
○過ぎし日も過ぎかく時も来る時もまた
は夢かやが淋しき

淋しみの子 堯民

○張戸越隙もる風の寒ければ今宵も
よ語りあがさん

秋 雜詠

○散りし葉のそりえ上にあつる葉のひみじ
くひづく秋のくははも

秋 雜詠

○思ひ出は秋空
はるか故里にいとけふき
しき女との文に涙す

獨り居の秋 三木郎

○秋や逝く今日の日ふりき 待うますとか
ねさす日 君思ふうふ
○わが恋は夢にありき獨り居の秋
深む時既とつざて

獨り居の秋 三木郎

○かかしさはまぬか北難き運命にぐ野
菊の姿その我に似て



マージョ
てソ殊

○獨り居の秋 三木郎
○獨り居の秋や深みでパンマスにあか
ねさす日 君思ふうふ
○わが恋は夢にありき獨り居の秋
深む時既とつざて

○張戸越隙もる風の寒ければ今宵も
よ語りあがさん
○散りし葉のそりえ上にあつる葉のひみじ
くひづく秋のくははも
○思ひ出は秋空
はるか故里にいとけふき
しき女との文に涙す
○かかしさはまぬか北難き運命にぐ野
菊の姿その我に似て

**ALMACEN Y BAZAR
DE Nakagawa**

中川商店
(バラッカス)
デジワ
○ハ六九
一三〇〇
アベスワレス街

祝
アルゼン
サール

Suarez 1300
U.T. 0869 Barracas

S.TAKAICHI

A la Florería
y Jardín:
"EL JAPON"
Hidalgo 627
U.T. 1449 almagro

園本日
高市丶

"ELASAHI"
GRAN TALLER
DE
LAVADO Y PLANCHADO
助之新園宮

U.T. 4366 Junal
Calle CARACAS
1875

*Gran Pueblo
Argentino*

*Salud !!
= 25 de Mayo 1927 =*

**CAFE Y BILLAR
“KIOTO”**

Corrientes 2702
U.T. 1253 ~ mitre

注
京
都
カフエ
ミーテ
電話二五五三
三七〇二

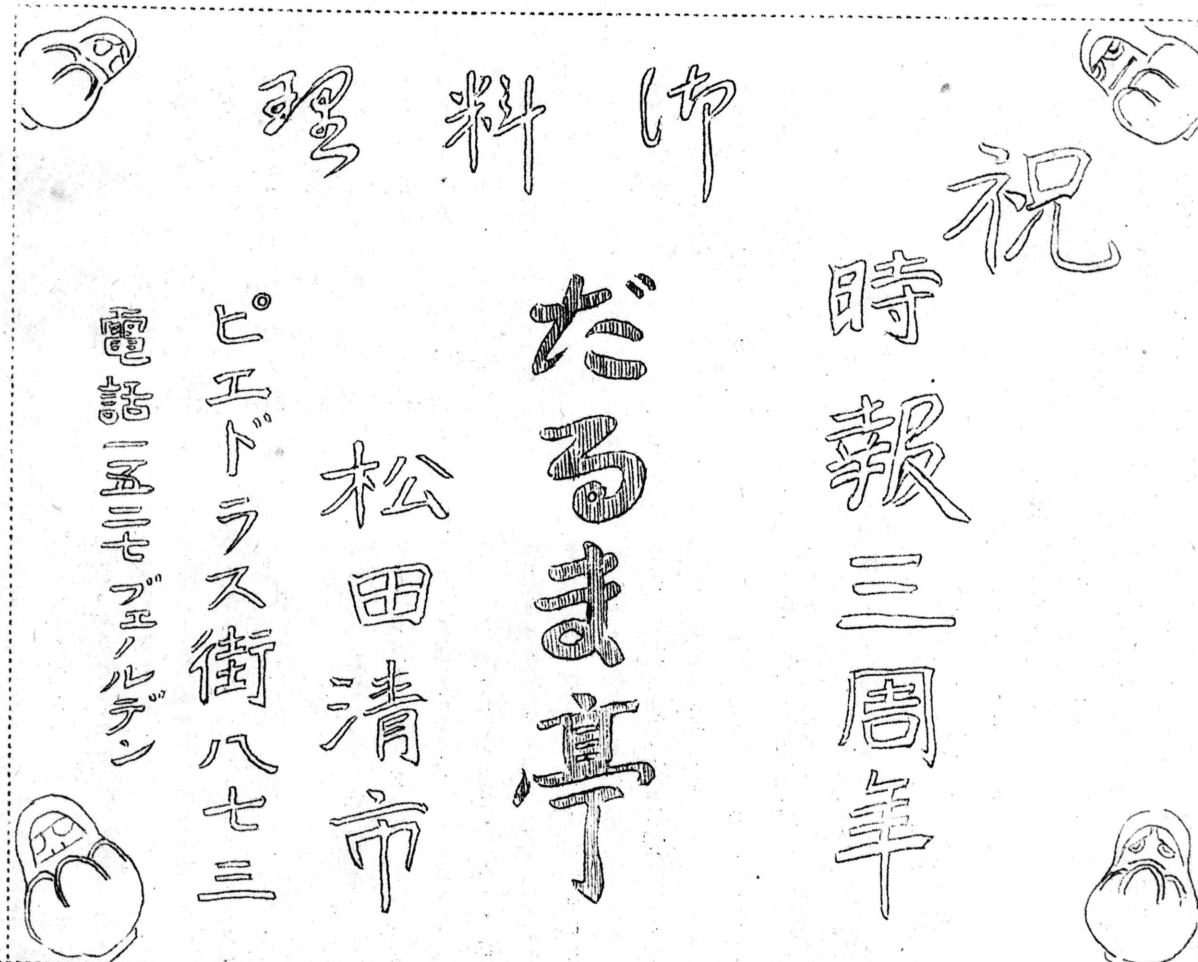
電話一五二七
二九八九
ビエラス街

松田清市

大
喜
年
事
ま
お
だ
る

時
報
三
周
年

祝



号八十五百第 報時丁然尔亞 日立廿月五年七二九一

EL TOKIO
Tintoreria y Galler
Lavado y Planchado
— DE OTSUBO —
RIVADAVIA 5202

大坪喜善我

ALMASEN Nishisaka

西坂商店

日本食料品

醤油製造販賣

時報三周年

CAFE TOKIO

カフエ 東京

星田兄弟

市内トクマシ街一九九

祝

BAZAAR "OSAKA"

Calle Olavarria 672
U.T. 2293 Barracas.

運送部

御引越荷物並に一般貨物運搬

太坡屋贊販店

店主 山元 荘治

時報三周年

Tintoreria
Lavado y Planchado
"EL YAMATO"
de Sene Hnos.

染物洗たく店

浦尾兄弟

電ワ 五〇九一(アンカル)

LAS HERAS 897
U.T. 5019 Juncal

祝

VIVA ! 25 DE MAYO
LA REPUBLICA 1810-1927
ARGENTINA !!

José Tomisaki

PROVEEDORES VENTA POR
MARITIMOS MAYOR Y MENOR
ALMACEN - Reparto a Domicilio -
HERNANDARIAS - 1544

CARNICERIA HERNANDARIAS - 1538
ALVARADO - 1177
Escritorio: MAGALLANES

富崎商店

四四五一街スアリダシナルエ
(スカツラバ)大三七一話電

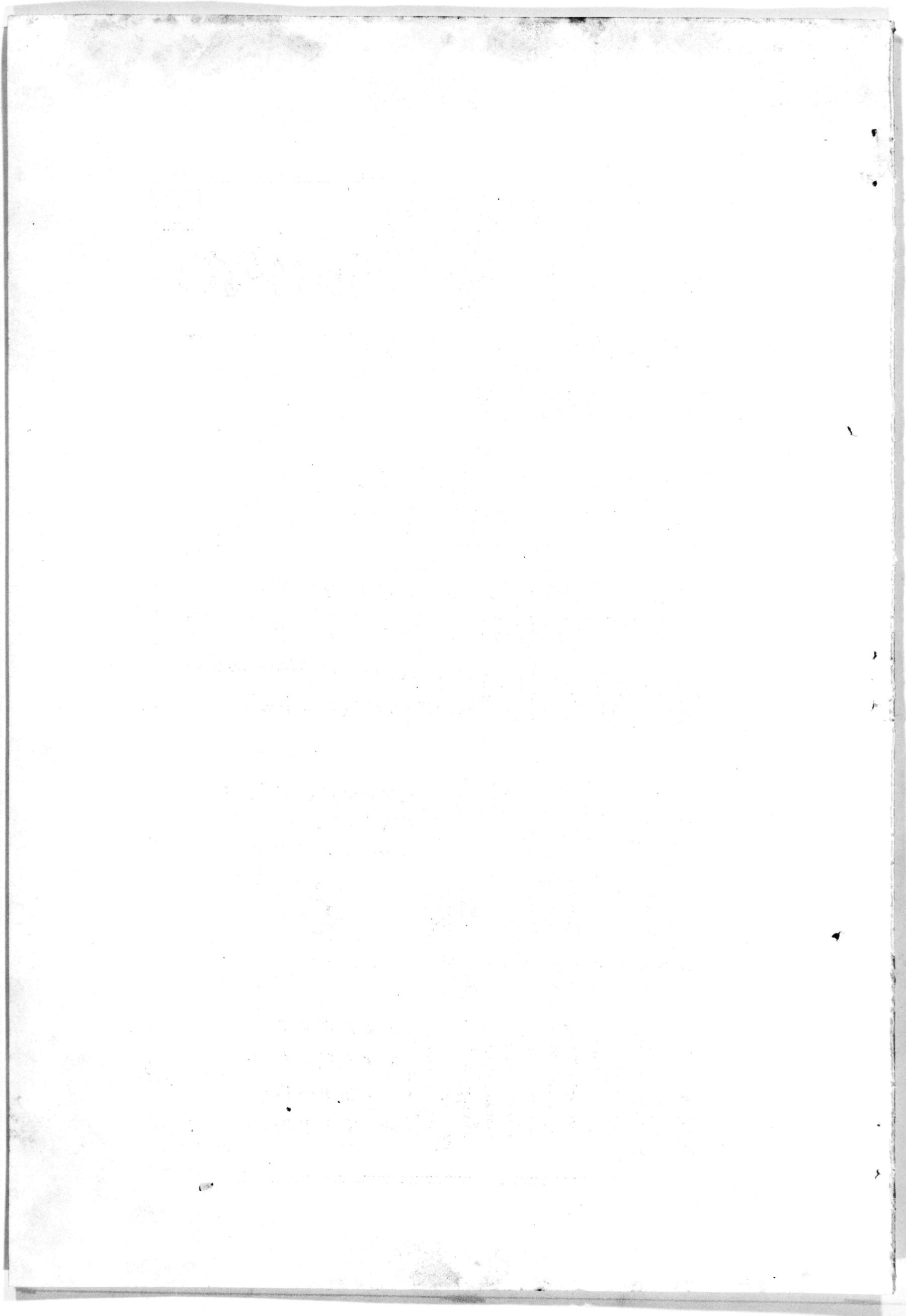
Dante Bruno
Juan Sumariva
Rando Octavio
Arma Yoshimura
Fernando de Teffraro
Benjamín González
Agustín Villan

富水德梶
崎川門田崎
芭野盛清修
野工信英市馬

店主 富崎
店員十九名

勇

1230



吾が論説の標準

吾が論説の標準 河南隱士
吾人が始めて本紙上にとの所説を
発表したのは去る一九二五年十二月
發行の第八十二号紙上であつた。
爾來一年有五ヶ月及ぬすながら
筆を社説欄に執つて居る者であ
る。既往に於て何を論ず何を
主張し如何なる態度を以て批
判を試みて居るかに就ては事
すでに過去に属するとして之を差
控え唯を吾人々茲に從来如何ふ
る標準によつて其所論を發表一つ
あつたがと云ふ矣を明かに一、今後
吾人の所説の高讚を賜はる人々に
対する参考に資せんとする者で
ある。

却説在外居留地に於ける邦字
新聞の立場は多くの場合對外
關係よりも對内關係即ち同胞
社會に対する關係の方がより深
いものである。邦字新聞の讀
者は外人ではなく在留同胞であ
る。更に詳言すれば在留同胞
中に於ても自由に外字新聞を
読み得る人よりも外國語の素
養に乏く且つ時間の餘る人の
方がより邦字新聞を必要とす
故に吾人は在亞同胞社命日

次に吾人の批判も主として同胞社會に外的的事情を加へて吾等の生活の向上、福祉増進上必要と認めたる事を主張一之が実現せ促がすものである。

次に吾人の批判も主として同胞社會に發生せる事件に重きを置きその標準は事件の原因、動機、經過、結果及び豫想等に普く見解を注ぐことに努め以て其是非の判断を下し、あるものである。

次に筆誅論難に至りては努力して之を辭^{ナフ}つゝあるものであるが事社會的に害毒を流し弊害を醸すが如きものに對ては之を默許することなく筆を柯^{ハシ}て論駁^{スル}るが、ふる可くその事件の内容、閑原人物の本名等に就ては之を明言することを辭^{ナフ}して私への私行甚だ一^キは某氏の閑中の秘辛^{ハシマツリ}が社會に曝露され乍らそれが如き過去の某紙の如き態度を憤りつめる者である。何と云れば各人に各様の敵対短所あり且つ秘密もあって之を紙上に現はすが如きは百害あつて一利あく且つ對社會的に害ある事件の論難も何等其人を傷つけんがために非ざること要は其人の反省や改心を望み、不詳事の耳公^{アリ}目公^{アリ}にされざらん事^{ハシマツリ}観^{ハシマツリ}がためであるからである。

木
き單に一時の一部にのみ見舞は下だ
すことは之を避けて居る者であら。
故に吾人の反対的意見の如く唱は常
に何々の理由あるが故に之に反対一且
如何にちずべきやとか矣に迄論及して
居る積りである。そよ凡と物事は
表裏ありて表面美はしく善に見ゆ
ることも深く其裏に到り内部に立ち
入らんか意外の良からぬ事を含んで
居るからである。

の走るがまことに筆を執るものからして、實に誣ふるも甚だ一々中傷的言と弄すら論者に向て一言にて置き度い。

斯くても吾へき反対のための反対と
あすものあらば、宜一く反対のための反対
反対からざる反対とは如何なるも
さ指すやを明示一然る後、吾人を
反対のための反対者と云せ。况や吾人をして私憤私情のまゝに論じて居る
に筆を執ると、かが如き者は
宣一くア第何号の何と云ふ題下
此何處に於て誰に付する何時
の私憤私情のまゝに論じて居る
か否を明言して吾人に当れ。斯く
吾人の言ひは既往に於ける吾人の
所説に断じて斯る事實の之れ
あかり一と信ずるが故である。
言論は自由である而して當々
たるものであらば、ふう。何等
の事実を擧げることなくして中傷
せんとするが如きは、論者として
最も卑劣である。若一夫れ吾人の
所説に對一堂々め論陣を張て
論戰一来るの士あらば、吾人は双
手を挙げて之を迎え而して應
戦するであらう。而て又第三者
の公平嚴正ある批判に對一ては
忠實に耳を傾け改むべきは之
を改むるに決て憚らざる者である。
されど吾人に対する皮肉冷笑罵罵
等によりて吾人の所信はず毫も動搖
せ来ざらることを明言して置く者である
以上を以て吾人の論考並に態度を
明かし一最後に吾人の所説に對して
声援を與えられ一人に、向つて萬
腔の謝意を表一併せて今後も公
正なる批判を賜う人輩を望んで拙筆
者である。(了)

(2) 25 de Mayo de 1927 "El Argentino" Año III, No 159

内外時報

紹育より巴里まで

廿五才の米国青年

行家

リベルグ人尉は單身、小型の

單葉飛行機に乗つて廿日午

前七時半分紹育を発一世四

時間と費して翌日午后十時セ

分巴里郊外アルゼンジエ飛行

場に首尾よく着陸一改米

直行飛行の最初の熟練者

たら名声と博した。

大尉の乗機は小型單葉の

リベルグ号であるが紹育出發

の際に二千リットルのナフタを積

み込んだ。同大尉は瑞典系の米

人で像セントルイスシカゴに間

りアム、号であるが紹育出發

の際に二千リットルのナフタを積

み込んだ。同大尉は瑞典系の米

人で像セントルイスシカゴに間

サカサ氏は同国内に駐屯してメロ氏は伯國首府に於て開催する米軍隊の撤退を希望するため本月中復度伯一大が日本上下の大敵討を受けてゐる

政府の調停を求めたが、

交戦團体の何れも未だ承認して居ないと云ふ理由でサカサ

大統領の要求を糾ねつけた。

政府の年によりて行はんとする

武州干涉案の成り行き

政府はニカラガ国内の而

下伯國上下の大敵討を受けてゐる

政府はニカラガ内に旅行中

日本船砲撃手による

日船砲撃手による

漢口にて航行中近江附近

駆逐艦桃弓は上海を發一

駆逐艦桃弓は上海を發一

駆逐艦桃弓は上上海を發一

公人私人

送金相場、

紹育百円通貨百十一ペソ四十仙

ハセ三日現在

邦人夫婦者三三当市日本

商店勤務希望者コラバ

時報社モテ昭和會セラレ

大橋忠一氏(羅府領事)南米

視察の為め六月下旬来豆の善

地伊豆三郎氏チャコより出武、

表せ提出するがどうと

總會豫告

在豆農株は廿五日午後高市會

長宅にて在豆日本人運轉手協會

上倉々干渉実施することにあれば自

き招集の由、

詳細ハ面談、上。

御禮廣告

仲井間宗昌氏逝く

氣骨ある人格者として在豆中経果

人間に尊敬せらる且屡々本紙に寄稿

されられたる仲井間宗昌氏はかくて獨

逸病院に入院、加療中の處榮石效く

リタニ薦送せり。

哀悼の意を表す。

五月十九日

友人總代

仲井間平助

仲井間昌次郎

小野霸全吉

宮城良光

仲井間平助

厚知各位

仲井間昌次郎

仲井間平助

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎

仲井間昌次郎